

試験研究課題一覧(平成31年度)

番号	区分 (財源)	研究課題名	担当科	研究概要
1	政策推進研究課題(県単)	発酵TMRの県内導入及び普及に向けた調査研究(H31)	酪農・環境 ・ 肉用牛	施設整備や調製作業の負担を軽減するため、集約的な調整・供給体制が求められており、飼料コスト低減のために、自給飼料や未利用資源を有効活用し、安定した品質・成分の発酵TMRを製造することが必要であるため、集約的な供給施設としてTMRセンターを核とした供給利用モデルを策定し、発酵TMR給与技術の普及をめざす
2	戦略的研究課題(県単)	ブランド力・産地の魅力向上のための「おいしい」しまね和牛安定供給体制の構築(H30～H32)	しまね和牛改良 ・ 肉用牛	消費段階まで見据えた「しまね和牛」ブランド力の強化を実現するため、「しまね和牛」の特徴を定量的に表す独自の指標による、「おいしい」評価手法を開発するとともに、指標に基づいた遺伝的改良・飼養管理改善による、「おいしい」しまね和牛安定供給体制の確立をめざす。
3	戦略的研究課題(県単)	「しまね和牛」の生産基盤の拡大と新たな担い手確保のために水田等を活用した省力技術の確立(H30～H32)	繁殖技術	「しまね和牛」の生産基盤を確保するためには、繁殖牛の維持・増頭が不可欠の課題であり、担い手を確保するための低コスト生産ならびに省力的生産ができる水田放牧技術を確立する。
4	課題解決型(県単)	地域資源を活用した島根型TMR調製方法の検討(H28～H31)	酪農・環境	県内の飼料自給率向上のため、新たな未利用資源の発掘とWCS用大豆の栽培技術を確立する。また、稲WCSや飼料用米と新たな地域資源を混合したTMR調製技術を確立する。
5	課題解決型(県単)	早生茎葉型イネホールクロップサイレージを用いた飼料給与技術の確立 ー水田二毛作に対応した効率性と利用性向上に向けてー(H29～H31)	酪農・環境	県内の飼料自給率向上のため、秋ソバとの二毛作体系に対応する新たなイネWCS用早生茎葉型品種の栽培技術を開発するとともにイネWCSの多給による飼養管理体系を構築する。
6	課題解決型(県単)	県内産飼料を活用したTMR給与による「しまね和牛」の短期肥育技術の確立(H29～H31)	肉用牛	肉用牛肥育経営の収益性向上のため、県内産飼料を活用したTMR給与体系による26カ月齢出荷の短期肥育体系を確立する。
7	基礎的(県単)	枝肉形質および脂肪酸組成に関する育種価およびDNA解析による「しまね和牛」種雄牛改良方式の構築(H30～H34)	しまね和牛改良 ・ 繁殖技術	育種価の効果的な解析と、受精卵移植・DNA解析等の技術を活用し、能力の高い新規種雄牛の造成・選抜方式を構築する。
8	基礎的(県単)	繁殖牛のゲノミック評価法の確立と生産性高位安定化技術の開発による「しまね和牛」雌牛群の経済的能力の向上(H28～H32)	繁殖技術 ・ しまね和牛改良	繁殖雌牛群の能力向上のスピードを速めるため、新たな個体評価法を確立するとともに、優良繁殖雌牛を効果的に増殖、増頭する生産技術の高位安定化を図る。
9	競争的資金(国補)	国際競争力強化に向けた黒毛和種短期肥育技術の開発(H28～H32)	肉用牛	肥育期間中の給与飼料の調整・管理方法を開発し、黒毛和種肥育牛の平均的出荷月齢(29カ月齢)を、枝肉形質を維持しながら100日間短縮する飼養管理プログラムを作成するとともに、本プログラムに適した遺伝的系統を明らかにする。
10	競争的資金(国補)	乳用牛の泌乳平準化とAIの活用による健全性向上技術の開発(H29～H32)	酪農・環境	牛群検定記録等から平準化乳牛の経済性を加味した生産モデルを構築し、最適な搾乳・乾乳期間の泌乳平準化乳牛の”飼い方”モデルを提示するとともに、乾乳期短縮技術を開発して平準化乳牛のための乾乳期飼養マニュアルを構築する。さらに、泌乳曲線をAIにより予測し、泌乳に影響を与える個体要因の解析システムを開発、実証する。
11	競争的資金(国補)	和牛のゲノムデータベースと地域サンプルを活用した生産阻害因子解明のための解析プラットフォームの構築(H30～H32)	繁殖技術 ・ しまね和牛改良	和牛ゲノムデータベースの更新、管理体制、さらに地域特異的サンプルを用い候補有害差異を検証するシステムや有害差異のDNA診断法の開発と普及体制の構築により和牛の生産阻害因子の排除・抑制の実用化をめざす。
12	競争的資金(国補)	省力化を担保した丈夫な乳用後継牛を育成する高度哺育プログラムの開発(H30～H32)	酪農・環境	機能性を高めた代用乳の開発にあわせて、消化管機能を促進させる高度哺乳プログラムを開発して、省力かつ効率的な早期反芻胃の発達を促す給与方法について解明する。